プロジェクト科目　　議事録

2006年　　6月　　25日提出

プロジェクト科目　テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名　G	学生ID　-
日時　2006年　6月　23日（　金　） 15：00　～　18：30 場所　寧静館501	
議題 ① WS企画内容の詰め ② 体験ブースに関する諸問題 ③ Ｔからのアドバイス ④ Ｔのアドバイスを受けて決まったこと ⑤ 諸連絡	
参加者 Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｅ、Ｇ、Ｈ、Ｔ、ＴＡ	

記録

① WS企画内容の詰め

…Ｃが作成した最新の企画書草案をもとに、企画内容・その他について話し合った。

☆課題その１、タイトルをどうするか。変更するか？このままで行くか？

　現在のところ、WSのタイトルは「ハロー！“ｋｎｏｗ”夏祭り～夏祭りで能を体感しよう～」となっている。しかし、先週観世流能楽師ａが提示してくださった案（体験ブースで小学生達を舞・謡・太鼓の３グループに分け、最後に全てを合わせて発表会をするというもの。詳しくは前回の議事録及びＣが作成した企画書草案を参照のこと。）を採用すると、体験ブースの比重が非常に大きくなり、他のブースが付随的なものになる⇒**祭り**色が薄れるのではないか？という指摘があった。そうなると、タイトルを変更することも視野に入れるべきである。この問題は企画内容の詰めを優先することとし、保留ということにした。

☆課題その２、１つのグループが体験ブースで舞・謡・太鼓を習っているとき、他の２つのグループは紙芝居ブース・展示ブースに殺到する。どう解決するか？

●誘導の仕方について

Ａ）体験ブースを２階、紙芝居ブース・展示ブースを１階に設定したら、児童たちの行動範囲が把握しやすい⇒移動させる際誘導しやすいのではないか？

Ｂ）１つのグループが体験ブースで体験しているとき、他の２つのグループのうち１つは待機（体験しているグループを見学）、もう１つのグループのみ紙芝居や展

示の方に行かせたらどうか？

Ａ）紙芝居や展示が面白かったら、児童がそこから動かなくなってしまうかもしれない。誘導には工夫が必要である。

●展示ブースを工夫することについて

Ｅ）能に関するクイズコーナーを作って児童にクイズを解いてもらったらどうか？また、面をかけるコーナーを作ってはどうか？その場合必要となるのは面のかけ方を児童に教える人である。⇒去年の能プロの先輩に能楽部の方がいるので、協力要請してはどうか？もしくは面のかけ方を我々が能楽師さんに教えて頂くという手もあるが。

Ｂ）面をかけるコーナーとクイズコーナー、同時進行で企画を進めておいて、どちらかが倒れても大丈夫なようにしておく必要がある。

②体験ブースの企画に関する諸問題

☆課題その１、児童の動きをどうするべきか

Ｂ）児童をＡ・Ｂ・Ｃの３グループに分けて、Ａグループが練習中、Ｂグループが待機して見学、Ｃグループが紙芝居・展示へ回るという案は一見効率的だが、児童の身になって考えると無理が生じてくるのではないか。Ａグループは自分たちが体験する前に他のグループの練習が見学できないため、ぶっつけ本番でやる事になってしまう。それに対してＢ・Ｃグループは体験前に見学できるので、定着しやすい。学習内容に差が生まれる。もっと児童のことを考えないといけない。

Ｂ）どこかで時間を節約して、Ａグループのみ練習時間を３０分とることも考えたのだが…無理があるかもしれない。

Ｂ）Ｃグループは舞や謡を練習した後すぐ発表会だが、Ａ・Ｂグループは練習と発表会との間に時間があく。観世流能楽師ａの案の場合、１つのグループが練習している間他のグループが待機してそれを見学しているという前提があるため２０分の練習でもなんとか発表会の形にまとめることができるが、我々の案とミックスした場合無理が生じる（紙芝居ブース、展示ブースに回る必要があるため）。しかし観世流能楽師ａの案をそのまま採用してしまっては私たちの WS ではなく能楽師企画の WS になってしまう。

Ａ）練習と発表会との間に時間があくのは確かに問題だ。発表会を最後に合同で行うのではなく、練習から発表会までを一連の流れとしてまとめてしまってはどうか？

Ｂ）発表会の際ギャラリーがいないと児童が達成感を味わえないため、発表会を最後に合同で行うという方式を考えたのだが…保護者が呼べるかどうかも交渉が進んでいない。また、もう１つの問題点は、発表ブースにいるのが能楽師ではなく私たちだった場合、不測の事態に対応できないかもしれないということである（例・舞を忘れてしまった児童が出てきた場合に自分たちで教えられるか？）。

…観世流能楽師ａの案を私たちの案にそのまま取り込もうとすると無理が生じる。それが最大の問題であることがはっきりした。

☆課題その２、観世流の謡と金剛流の舞を合同で発表することは本当に可能なのか？

…観世流能楽師ａから、観世流能楽師ａが謡・金剛流能楽師ａが舞を担当し、その２つを合わせて発表してはどうかという提案があったが、まだ金剛流能楽師ａから合意は得られていない。また、能が伝統的な芸能であること・プログラムとしての汎用性のことなどを考えると、観世流の謡と金剛流の舞を合同で発表することはやめた方が良いという形で意見がまとまった。そのため、観世流と金剛流の合同発表は無理という方向で、代替案を練ることになった。

・ブースの形態

観世ブース、金剛ブース、太鼓ブースの３つを用意する。

・具体的な方法

◎ 観世ブースでは…観世流能楽師ａが謡グループ（５人）、舞グループ（２人）にそれぞれ観世流の謡と舞を教える（２０分）。

◎ 金剛ブースでは…金剛流能楽師ａが謡グループ（５人）、舞グループ（２人）にそれぞれ金剛流の謡と舞を教える（２０分）。

◎ 太鼓ブースでは…囃子方（太鼓）が太鼓グループ（観世担当３人・金剛担当３人。一回につき計６人）に太鼓を教える（２０分）。

⇒発表の際は、観世流の謡・舞・太鼓のグループ、金剛流の謡・舞・太鼓のグループにする（つまり、流派合同発表はしない）。

・人数の内訳のまとめ

◎ 謡（観世）５人×３回＝１５人

◎ 謡（金剛）５人×３回＝１５人

◎ 舞（観世）２人×３回＝６人

◎ 舞（金剛）２人×３回＝６人

◎ 太鼓（観世）３人×３回＝９人

◎ 太鼓（金剛）３人×３回＝９人

計６０人。

・時間について

１グループ２０分×３回で６０分。

③Ｔからのアドバイス

…体験ブースの諸問題を話し合っていると話が行き詰まり、雰囲気が重くなってきた…それに対して、Ｔからアドバイスがあった。

☆Ｃが作成した企画書草案（26 日の授業参観時に小学校に持参予定のもの）について

Ｔ） このままでは小学校の先生には分かりにくい。体験ブースに関する部分を読んでも、児童を３グループに分けることは理解できるが、どういう流れで進行していくのかということがはっきりしない。あせって授業参観に間に合うように

企画書を仕上げようとしなくても良いのではないか。授業参観の際には、リーダーが口頭で途中経過を伝えてはどうか。

☆　組織のマネジメントについて

…今、能プロは皆がバラバラに動いているためリーダーが全体を把握できず、指示が出しづらくなっている。そのため、議論していても話が煮詰まったり、本番まで間が無いのに時間を効率的に使えずあせったりしてしまう。Tから、そんな現在の状況を打破するアドバイスがあった。

◎　企画をもっと細かく分け、責任の所在を明確化せよ！

T）　企画をもっと細かく分け、その責任者を明確にすることが重要だ。今は企画全体を全員で担当しているような状態である。例えば体験ブース、紙芝居ブース、展示ブースごとに責任者と担当者を決め、個々のブース担当者の中で企画をつめていくことが必要である。責任の所在を明確化させよう。

つまり、組織の中には、長期的な役職（リーダー、サブリーダー、渉外、会計、広報など１年を通しての役割）と、短期的な役職（体験部門、紙芝居部門、展示部門がそれぞれ企画をあげ、リーダー・サブリーダーがそれを確認する…つまり、第一回 WS 限定の役割）の両方が必要ということだ。

◎　企画ひとつひとつに対し、企画書を作成せよ！

T）　ひとつの企画に対し、ひとつの企画書が原則である。体験部門、紙芝居部門、展示部門はそれぞれ企画書を作成せよ。長期的な役職についても同様である。例えば広報の場合、マスコミに広報したいのであればそれについての企画書を作成せよ。

企画書を作成する際には、「何がしたいのか」ということが**はっきり**伝わるように注意すべし。

◎　タスクを整理せよ！

T）　個々の企画ごとに、責任者はタスクを整理する必要がある。ひとつの企画に対し、どのような・どれだけの数の仕事をいつまでにしなければならないのかを把握せよ。

◎　タスク表を作成せよ！

T）　タスクが整理できたら、今度はタスク表の作成だ。タスク表はリーダーが全体の進行状況を把握するための羅針盤のようなものである。必ず１枚（1 ファイル）にまとめなければならない。

★細かなタスクごとに期日を決め（タスクを細かく設定すると期限がずれてくる）、「タスクの責任者は期日（つまりデッドライン）までには絶対タスクを間に合わせる」ことが重要である。

★タスクの責任者は、**リーダーへの「ホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」を徹底する**。リーダーが全体の進行状況を把握するためである。リーダーは報告を受ける度にタスク表にそのタスクの進行状況をアップデートしていく。

★リーダーはタスク表を見ながらタスクを管理・組織全体をマネジメントす

る。クールさ、客観性を大切にすべし。

◎リーダーは長期的構想を持つべし！

Ｔ）　リーダーの仕事で一番重要なのは、タスク表を片手にプロジェクト全体の進行をマネジメントすることである。秋学期のことも視野に入れた長期的構想を持つべし。

☆その他の WS 全体に対するアドバイス

◎煮詰まったらプロに相談せよ！

Ｔ）　企画を細かく分けたら、基本的には個々のブース担当者の間で企画内容を詰めていくことになる。その過程で煮詰まったら迷わずプロに相談せよ。やりたい事があるなら遠慮してはいけない。声をかけてもらえばプロの方に打診する。プロに相談する際に大切なのは、一人ひとりがもっと能について**勉強**することである。勉強しておかなければ、やりたいことを具体的に表現できず、プロの方に伝えられない。

◎　何かアイディアが浮かんだらその場でメモせよ！

Ｔ）　アイディアというものは苦しいときにしか浮かばない。浮かんだら一瞬で忘れる。必ずメモして残しておくように。

◎　会計・広報は渉外の後方支援をせよ！

Ｔ）　渉外に仕事が偏っているのであれば、手の空いている広報・会計は後方支援にまわって仕事を分散させるべし。

◎　当日の光景をイメージせよ！

Ｔ）　常に WS 当日の光景を具体的にイメージせよ。児童の笑顔を思い浮かべることを忘れてはいけない。

◎　このプロジェクトの目標は再現可能な汎用性の高い「プログラム」をつくること！

Ｔ）　他の小学校で同じ事をやっても同じ効果が得られるような WS を期待する。「小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究」とはそういう意味である。

☆　マスコミ広報についてのアドバイス

Ｔ）　まずは企画書を作成せよ。どのような目的でマスコミに広報したいのか明確化すること。次にしなければならないのは小学校にマスコミ広報が可能か問い合わせることである（7 月 7 日以降、最終企画書を提示する際に一緒に）。許可がとれたら同志社大学の広報課に打診せよ。小学校からＯＫが出ても、当日記者が来てくれるかどうかはマスコミの都合次第である。

④　Ｔのアドバイスを受けて決まったこと

☆　企画を細かく分け、責任者と担当者を決定した（★が付いているのが責任者）

◎　体験部門：★Ｅ、Ｃ、Ｆ、Ｇ

◎　紙芝居部門：★Ｂ、Ｅ、Ｇ

◎　展示部門：★Ｈ、Ｄ

☆　それぞれのブース担当の責任者はタスクを整理しリーダーに連絡することになった

◎　体験部門：6 月 28 日まで
◎　紙芝居部門：6 月 25 日まで
◎　展示部門：未定

☆　タスク表を作成しなおすことになった
担当はＢ（エクセルで作成）

☆　ブースごとの企画書の期日
7 月 7 日に決定。

☆　プロの方に相談する機会を設けることになった
◎　観世流能楽師ａ・・・6 月 30 日　４限
◎　金剛流能楽師ａ・・・6 月 27 日　２限～昼休み（同時に能楽講座も予定）
◎　囃子方（太鼓）・・・未定

⑤諸連絡

◎6 月 26 日は小学校での授業参観。8：20 に地下鉄国際会館駅改札前集合。準フォーマルな服装で（男性はノーネクタイ、ジャケット着用）。大学ノートと筆記用具を忘れずに。